

まいいぶん 愛知

no.70

調査速報！惣作・鐘場遺跡 / 長谷口遺跡



惣作・鐘場遺跡は縄文時代から中世末期まで幅広い時代にわたる遺跡です。これまでに縄文時代、弥生時代後期～古墳時代初頭、古墳時代終末、古代の竪穴住居などの遺構が確認されました。

(詳細は 2 ページへ)

発掘調査速報 1 惣作・鐘場遺跡 (瀬戸市)

惣作・鐘場遺跡は瀬戸市の南東部の惣作町から鐘場町にかけて所在し、矢田川の支流である赤津川左岸の山地との間に形成された標高 165 ～ 180 m の洪積段丘上に立地します。この調査は県道瀬戸設楽線建設に伴うもので平成 12 年度より行っています。遺跡は北東から南西方向に延び、惣作川を挟んで南北に別れます。調査は南より開始し、今年度は惣作川北側の区域の調査を行っています。南の区域の調査では縄文時代から中世にかけての遺構が検出されていて、縄文時代中期、古墳時代後期の竪穴住居などが確認されています。



▲ 弥生時代の竪穴住居と遺物出土状況



▲ 竪穴住居から出土した銅鐻型土製品

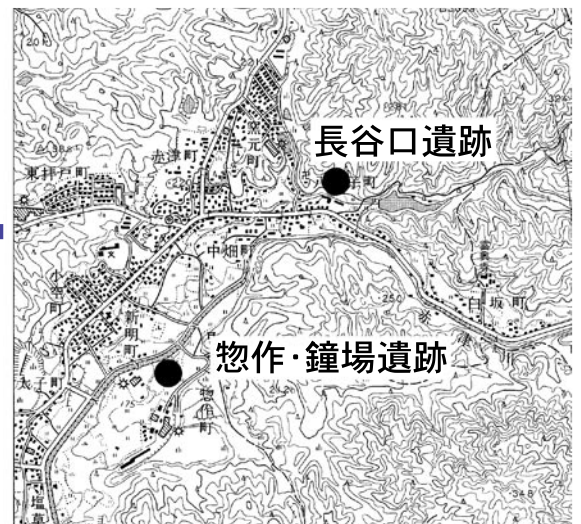
昨年度から北部の調査を行い、遺跡の北辺部より縄文時代から古墳時代後期の遺構・遺物が検出され、古墳時代後期の竪穴住居群が確認されています。

今年度はこれまで遺跡の北端から南に続く 2 調査区の調査を行い、赤津川と惣作川に挟まれる段丘上で弥生時代後期～古墳時代初頭と古墳時代終末の竪穴住居より構成される集落、室町時代の屋敷地などが検出されました。弥生時代の集落は防御を考慮して立地し、溝を配置しており、これまで弥生時代の遺跡の調査例のなかった瀬戸市域では貴重な例と考えられます。(主任 酒井俊彦)

発掘調査速報 2 長谷口遺跡 (瀬戸市)

長谷口遺跡は、瀬戸赤津焼の界隈から東、長谷山観音の近くに位置します。標高 200 m 前後、北側の丘陵と南側の木下川に挟まれた丘陵縁辺の緩斜面に立地しています。2000 年 8 月～ 11 月、そして今回は 2002 年 7 月～ 8 月に発掘調査を行い、あわせて 2,525 m² の調査を行いました。

本年度の調査成果としては、隣接する長谷口 B 窯に関連する居住地と縄文時代中期末の住居など重要な成果を上げることが



▲ 惣作・鐘場遺跡と長谷口遺跡の所在地
(2 万 5 千分の 1 「猿投山」より)

ができました。以下に、成果の一部を紹介します。

近世～近代の居住地と考えられる遺構群では、長谷口 B 窯 (19 世紀代) とほぼ同時期の窯道具や製品などが出土したことから、長谷口 B 窯が操業していたころの生活空間と考えられます。縄文時代中期末の住居は、五角形に掘り込まれた竪穴住居です。中央に円形の炉穴をもち、柱穴が 5 本ありました (写真)。

そのほか、縄文時代早期の遺構・遺物、弥生時代と古代の竪穴住居、さらに中世の馬の墓など多岐にわたる成果をあげることができました。

(調査研究員 永井宏幸)



▲ 縄文時代中期の住居跡

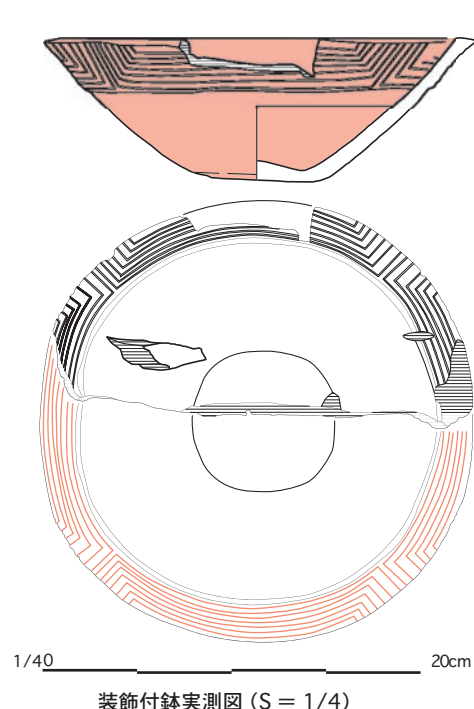
- 資料紹介 - 朝日遺跡出土の木製鉢と戈形木製品

平成 13 年度から再開された朝日遺跡の発掘調査では、これまでに約 300 点の木製品が出土しました。なかでも、今回ご紹介する装飾付鉢と戈形木製品はきわめて貴重なものです。いずれも O1Ad 区という調査区から出土しました。

装飾付鉢は、朝日遺跡の北集落を囲む環濠帯の南辺に築かれた、逆茂木とよばれる防御施設のなかに、廃棄された状態でみつかりました。時期は、一緒に出土した土器から、弥生中期中葉頃であることがわかります。出土した時点で、すでに半分が失われていましたが、復元してみると、直径が約 23 cm で、高さは 7.5 cm ありま



木製鉢出土状況



装飾付鉢実測図 (S = 1/4)

す。底部は平底で、口縁部にかけて直線状に開くかたちで、現代の

私たちが使うラーメン鉢によく似ています。口縁部外面の上側約 3 分の 1 には、コの字状の溝を 7 本重ねて刻んでいます。溝は幅 2.5 mm ほどで、鋭い金属製の刃物で刻まれた可能性が高いと思われます。左の展開図で完全なかたちを復元すると、この紋様はちょうど 4 単位で 1 周するように割り付けられていることがわかりました。さらに、内外面ともに赤い顔料が塗られています。朝日遺跡ではこれまでも高杯など、つくりの良い容器類は多く出土していますが、なかでもこの装飾付鉢は一級品といえます。おそらく、庶民が日常生活で用いたものではなく、王とよばれるような人が、お祭りの時などに使用したのではないかと考えています。

戈形木製品は、朝日遺跡の北集落と南集落を隔てる大きな谷（谷 A）の北岸から出土しました。時期は弥生中期後葉頃です。全長は 24.6 cm、幅は 4.5 cm で、厚さは 0.9 cm あります。戈形とは文字通り、古代中国の武器である戈を木で模したものです。使い方はよくわか

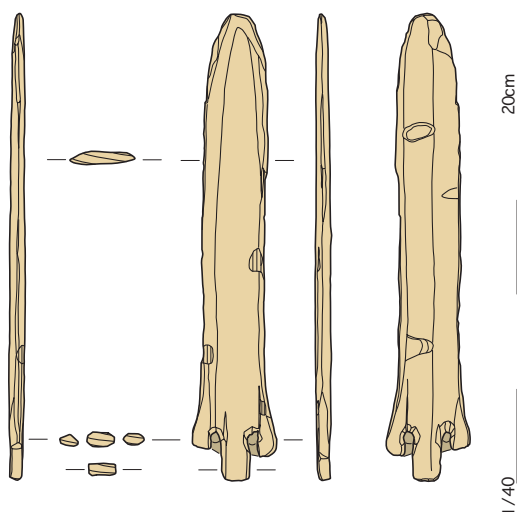
りませんが、一説には、お祭りの時におこなわれた模擬戦で使用されたといわれています。近畿地方以東では、石川県小松市の八日市地方遺跡に次いで 2 例めとなる貴重なものです。

いずれもが、同時期の他の弥生時代集落からはめったに出土しませんので、朝日遺跡ならではのものといえます。

(調査研究員 樋上 昇)



戈形木製品装着想像図



戈形木製品実測図 (S = 1/4)

埋蔵文化財速報展 2002

「考古学じゃない？ 考古学」

埋蔵文化財展が終了しました

今年度の埋蔵文化財展は8月3日から18日まで瀬戸市文化センターにおいて開催いたしました。

「考古学じゃない考古学？」と題し、自然科学分野から考古学へのアプローチの方法を中心として出土遺物の展示を行いました。あわせて昨年度調査した23遺跡の紹介も行いました。

このテーマに合わせ、講演会は国際日本文化研究センターの安田喜憲先生に「森と人との物語ー環境考古学は語るー」というテーマで、歴史と自然の関わりを分かりやすくお話いただきました。また、2回の講座は昨年度の発掘調査の最新成果報告とともに、胎土分析・昆虫・骨を題材に「考古学を科学する」にスポットを当てた解説が行われました。

この夏の猛暑にもかかわらず、1,000名を超える方々にご来場いただき、盛況のうちに埋文展を終えることができました。地元の瀬戸市教育委員会をはじめ各関係機関にもお世話になりました。ありがとうございました。

(課長補佐 川井啓介・調査研究員 鬼頭 剛)



埋蔵文化財講演会

お知らせ

その1：井関弘太郎先生のご逝去を悼む



埋文センター10周年シンポジウムにて

愛知県埋蔵文化財センター設立以来、当センターの理事（昭和60年～平成11年）運営協議会委員（平成11年～平成13年）および地理学の専門委員（昭和60年～平成13年）でありました井関弘太郎先生が6月27日にご逝去されました。朝日遺跡をはじめ松河戸遺跡・上品野遺跡などの発掘現場や専門委員会でご指導いただいた先生の温かな語り口を忘れることができません。

ご冥福をお祈りいたします。

(調査課長 都築暢也)

その2：Web「まいぶん愛知」?!

「まいぶん愛知」は今年度限りで、印刷物での発行を終了します。来年度以降は、ホームページでの情報提供を予定しております。

Kids2(仮称) 準備開始!!

現在、愛知県埋蔵文化財センターの情報センターでは、ホームページの新しいコンテンツとしてKids2(仮称)の準備を始めました。このコンテンツは、縄文時代から弥生時代を中心に紹介していた「ようこそばれ～す遺跡へ」に続いて、戦国から近世の時代を中心とした、子供向けコンテンツ第2弾です。

戦国～近世の色鮮やかな遺物、大規模な遺構群などいろいろな資料を集めています。開設は新年度を目指しています。どうぞ期待！

まいぶん愛知 no.70

発行 平成14年9月30日

編集 (財)愛知県教育サービスセンター

愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017

愛知県海部郡弥富町前ケ須新田字野方 802-24

TEL.0567-67-4163 FAX.0567-67-3054

http://www.maibun.com

Email:doki@maibun.com